

科目名	社会福祉基礎	学年	2年選択	使用教材	【教科書】
		単位数	2単位		【副教材】

学習目標

○社会福祉に関する諸課題を主体的に解決できる能力を身につける。
 介護の意義及び高齢者と障がい者における介護の役割を理解し、介護に関する基礎的な知識と技術を習得し、介護を適切に行う能力を育てる。

評価

○中間考査・期末考査

学習内容

学期	学習内容	学習の目的
1	介護の意義と役割 10時間 高齢者の生活と心身の特徴 8時間	介護とは何か、意義や役割について考える。 介護者としての心構えを学ぶ 高齢期の特徴と適切な介護の方法を学ぶ。 介護従事者としての責任や任務、専門性と基本姿勢など、介護従事者として必要な心構えや態度について学習する。
2	・寝たきりの定義 3時間 ・認知症の定義 6時間 ・寝たきり・認知症高齢者の介護 3時間 ・障がい者の生活と介護 5時間 ・障がい者の心理 3時間	・寝たきりや認知症に触れながら高齢者介護の特質について学習する。 ・障がいの概念と各障がいの特徴、障がい別の介護の方法について学ぶ。 ・障がいによって生じる生活上の問題について考え、心理的影響や受容などについて学習する。
3	・自立生活支援と介護 2時間 ・自立生活とリハビリテーション 2時間 ・地域を支えるシステム 1時間	・自立の考え方、概念とその重要性について学ぶ ・自立生活を支える援助の方法について学習する ・高齢者や障がい者の生活を支えるシステムやサービスについて学ぶ

科目名	社会福祉援助技術	学年	2年選択	使用教材	【教科書】
		単位数	2単位		【副教材】

学習目標

- ・自立を尊重した生活を支援するための介護の役割を理解させる。
- ・基礎的な介護の知識と技術を習得させる。介護場面において適切かつ安全に支援できる能力と態度を育てる。・高

評 価

- 中間考査・期末考査

学習内容

学期	学習内容	学習の目的
1	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援の理解 3時間 ・ベッドメイキング 6時間 ・車椅子の介助 5時間 ・体位変換 4時間 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の生活を支えていくことについて、共通認識を図る。 ・安全・安楽な介護を行うことを理解させる ・利用者の個別化、自己決定権について学習する。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の着脱 7時間 ・移動の介護 7時間 ・食事の介護 3時間 ・排泄介助 3時間 	<ul style="list-style-type: none"> ・声かけや、介護に対する丁寧な姿勢が、信頼関係を築くことにつながることを学習する。 ・利用者主体で介護を展開することの大切さを技術を学ぶことを通して習得させる。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄介助 6時間 ・身体の清潔 5時間 	<ul style="list-style-type: none"> ・プライバシーと個人の尊厳を尊重することの重要性を理解させる。 ・利用者の心身の状態や状況に応じた介護を学ぶ。 ・利用者の心理について考え、理解を深める。

科目名	基礎介護	学年	3年選択	使用教材	【教科書】
		単位数	2単位		【副教材】

学習目標

<ul style="list-style-type: none"> ○・高齢者や障がい者の介護に関する基本的な知識を学びながら、よりよい介護について考える。 ・介護の心得や理念を習得する。

評価

○中間考査・期末考査

学習内容

学期	学習内容	学習の目的
1	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉の理念とケアサービス 4時間 ・サービス提供の基本視点 4時間 ・介護の内容 6時間 ・高齢者保健福祉の制度 6時間 	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉の基本理念は、個人の尊厳を尊重する・自立を支援するということを理解させる。 ・QOLの向上やノーマライゼーションは、福祉の基本理念であることを理解させる。 ・社会福祉制度は、利用者が自分自身でサービスを選んで利用しなければならないことを考えさせる。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・介護従事者の役割 7時間 ・介護従事者の職業倫理 7時間 ・サービス利用者の理解 6時間 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の希望を実現するための自立支援と介護者の援助について学ぶ。 ・実例をふまえながら介護従事者の倫理とサービス提供の心得を学習する。 ・高齢者の行動や心理を深く理解するとともに高齢者を抱える家族への接し方を学ぶ。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・介護に関する知識と方法 6時間 ・生活援助に関する知識と方法 4時間 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護の定義・基本原則と在宅介護の特徴・進め方を中心に学習する。 ・高齢者、障がい者の家事援助の基本的な姿勢について学習する。 ・生活の安定を図ることを目的として、利用者の社会生活の維持・拡大という意味における支援を提供することの大切さを理解させる。

3 年 生 福 祉 介 護 職 員 初 任 者 研 修 事 業

<開講の目的>

- ・福祉の心を養うとともに、福祉についての基礎知識や技術を修得する。
- ・高齢社会に対応し、地域に貢献することのできる人材を育成する。

<カリキュラム日程表>

○研修全体の期間：平成 26 年 4 月 28 日～平成 27 年 3 月 1 日） 平成 26 年 2 月 20 日作成

研 修 日 時			時間 (h)	科目番号 教科番号・教科名	講 師 名	講師要件資格
月 日	曜	時分～時分				
26.4.28	月	13:45～14:45	1	開校式	武士俣真司	福祉系高校教員
26.4.30～ 5.9	水 金	13:45～15:35	3 3	1 (1)多様なサービスの理解 1 (2)介護職の仕事内容や働く現場の理解	武士俣真司	福祉系高校教員
26.5.12 ～5.23	月 金	13:45～15:35	3 4 2	2 (1)人権と尊厳を支える介護 2 (2)自立に向けた介護 2 (3)人権に関する基礎知識	宇佐美明広	福祉系高校教員
26.5.26 ～5.30	月 金	13:45～15:35	2 2 1 1	3 (1)介護職の役割、専門性と他職種との連携 3 (2)介護職の職業倫理 3 (3)介護における安全の確保とリスクマネジメント 3 (4)介護職の安全	武士俣真司 武士俣真司 日高学 日高学	福祉系高校教員 福祉系高校教員 看護師 看護師
26.6.2 ～6.13	月 金	13:45～15:35	4 3 2	4 (1)介護保険制度 4 (2)医療との連携とリハビリテーション 4 (3)障害者総合支援制度及びその他制度	武士俣真司 山崎啓佐 日高学 武士俣真司	福祉系高校教員 理学療法士 看護師 福祉系高校教員
26.6.16 ～6.20	月 金	13:45～15:35	3 3	5 (1)介護におけるコミュニケーション 5 (2)介護におけるチームのコミュニケーション	宇佐美明広	福祉系高校教員
26.6.23 ～6.27	月 金	13:45～15:35	3 3	6 (1)老化に伴うこころとからだの変化と日常 6 (2)高齢者と健康	宇佐美明広	福祉系高校教員
26.6.30 ～7.4	月 金	13:45～15:35	2 1 2 1	7 (1)認知症を取り巻く状況 7 (2)医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 7 (3)認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 7 (4)家族への支援	武士俣真司	福祉系高校教員
26.7.7 ～7.11	月 金	13:45～15:35	1 1 1	8 (1)障害の基礎的理解 8 (2)障害の医学的側面 8 (3)家族の心理。かかわり支援の理解	宇佐美明広	福祉系高校教員
26.9.8 ～9.19	月 金	13:45～15:35	4 4	9 (1)介護の基本的な考え方 9 (2)介護に関するこころのしくみの基	武士俣真司	福祉系高校教員

			4	基礎理解 9 (3)介護に関するからだのしくみの基礎理解		
26.9.22 ~11.28	月 金	13:45~15:35	6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 7	9 (4)生活と家事 9 (5)快適な居住環境整備と介護 9 (6)整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 9 (7)移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 9 (8)食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 9 (9)入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 9 (10)排せつに関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 9 (11)睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 9 (12)死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期の介護 9 (13)施設実習		
26.12.1 ~12.12	月 金	13:45~15:35	6 6	9 (14)介護過程の基礎的理解 9 (15)総合生活支援技術演習	武士俣真司	福祉系高校教員
27.1.12 ~1.23	月 金	13:45~15:35	2 2	10 (1)振り返り 10 (2)就業への備えと研修終了後における継続的な研修	宇佐美明広	福祉系高校教員
計			140	時間数内訳 (通学140時間)		
27.1.30 27.2.11	金 水	9:00~10:00 13:00~14:00	1 1	修了評価筆記試験 修了判定会議 試験結果集計・採点・可否発表	武士俣真司 宇佐美明広	福祉系高校教員
27.2.12	木	9:00~10:00	1	補講		
27.2.13	金	11:00~12:00 9:00~10:00	1 1	再評価試験 終了判定会議 試験結果集計・採点・可否発表		
27.3.1	日	11:00~12:00	1	修了式	武士俣真司	福祉系高校教員

※研修開始にあたっては、開講式・オリエンテーションを実施すること。

※科目番号・教科番号は、要綱の別紙2の科目・教科の番号を記入すること。

※通信学習の場合は、添削課題の提出期限日に通判定会議日、不合格者への補講等を行う日(筆記試験日の実施でも可。)および修了式を含めて作成すること。なお、修了判定会議の講師名も同様に記載すること。

※修了評価筆記試験日、修了すること。

< 研 修 区 分 表 >

平成 26 年 2 月 20 日作成

科目・教科	研修時間				到達目標・講義の内容・演習の実施方法 実習実施内容・通信学習課題の概要等
	通 学	通 信	実 習	計	
1 職務の理解 (6 時間)	6			6	到達目標：介護職が働く現場や仕事内容を具体的に理解させる。
(1) 多様なサービスの理解	3			3	講義内容：介護保険サービス、介護保険外サービス 「演習」グループにわかれて介護をテーマにグループディスカッションを行う。
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3			3	講義内容：居宅施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容、居宅施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージをつける。施設見学に行く。 「演習」介護職が働く現場や仕事の内容、サービス提供現場の具体的なイメージについてグループディスカッションを行う。
2 介護における尊厳の保持・自立支援 (9 時間)	9			9	到達目標：自立支援・介護予防という介護・福祉サービスを提供するに当たっての基本的視点を理解させる
(1) 人権と尊厳を支える介護	3			3	講義内容：個人としての尊重、尊厳のある暮らし、利用者のプライバシーの保護、ノーマライゼーション、QOL、虐待防止 「演習」利用者の権利と権利擁護、権利侵害についてグループディスカッションを行う。
(2) 自立に向けた介護	4			4	講義内容：自立支援、個別ケア、意欲を高める支援 介護予防
(3) 人権に関する基礎知識	2	—	—	2	講義内容：利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由、虐待を受けている高齢者への対応方法 「演習」具体的な人権侵害の場面をもとに、介護職としての在り方を話し合う。
3 介護の基本	6			6	到達目標：介護のめざす基本的なものは何かを考えさせる
(1) 介護職の役割、専門性と他職種との連携	2			2	講義内容：介護環境の特徴と理解、介護の専門性、介護に関わる職種 「演習」チームケアについて、その重要性、役割分担、課題など、グループディスカッションを行う。
(2) 介護職の職業倫理	2			2	講義内容：介護職としての社会的責任、プライバシーの尊重・保護、専門職の倫理と意義
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	1			1	講義内容：介護における安全の確保、事故予防・安全対策、感染対策 「演習」転倒のリスクとその予防のための対策、方法について検討する。
(4) 介護職の安全	1			1	講義内容：介護職の心身の健康管理、腰痛予防 感染症対策
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	9			9	到達目標：利用者の生活を中心に考えるという視点を共有し、その生活を支援するための福祉サービスの

				位置づけや代表的なサービスの理解を促す。
(1)介護保険制度	4		4	講義内容：介護保険制度創設の背景及び目的、制度の仕組みの基礎的理解、制度を支える財源 「演習」介護保険の理念についてグループディスカッションを行う。
(2)医療との連携とリハビリテーション	3		3	講義内容：医療行為と介護の違い、訪問看護、施設における看護と介護の役割 「演習」事例をもとに介護職と看護職の連携の在り方、方法についてグループディスカッションを行う。
(3)障害者総合支援制度及びその他制度	2		2	講義内容：障害者福祉制度の理念、障害者自立支援制度の仕組み
5介護におけるコミュニケーション技術	6		6	到達目標：共感・受容・傾聴的態度・気付きなど、基本的なコミュニケーション技術を学ぶ
(1)介護におけるコミュニケーション	3		3	講義内容：利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術、言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーションの特徴、ロールプレイを行う 「演習」利用者の心理や利用者との人間関係を悪化させてしまうコミュニケーションとその理由について、話し合う。
(2)介護におけるチームのコミュニケーション	3		3	講義内容：記録における情報の共有化、報告・連絡・相談の留意点 「演習」適切な記録の方法について演習を行う。
6老化の理解	6		6	到達目標：加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について理解する。
(1)老化に伴うこころとからだの変化の日常	3		3	講義内容：老年期の発達と老化に伴う心身の変化、老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響
(2)高齢者と健康	3		3	講義内容：高齢者の疾病と生活上の留意点、高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 「演習」症状の小さな変化にどのようにすれば気づけるか、グループディスカッションを行う。
7認知症の理解	6		6	到達目標：認知症を理解することの必要性に気付き、認知症の利用者を介護するときの判断の基準となる原則を理解させる。
(1)認知症を取り巻く状況	2		2	講義内容：認知症ケアの理念、認知症ケアの視点 「演習」認知症の方の心情や求めるものについて、グループに分かれて考え発表する。
(2)医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1		1	講義内容：認知症の定義、健康管理、認知症に使用される薬
(3)認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2		2	講義内容：認知症の人の生活障害・心理・行動の特徴、認知症の利用者への対応 「演習」認知症の方への関わり方について、グループで役割を決め、ロールプレイを行う。
(4)家族への支援	1		1	講義内容：認知症の受容過程での援助、介護負担の軽減
8障害の理解	3		3	到達目標：障害の概念と障害者福祉の基本的な考え方について理解する。
(1)障害の基礎的理解	1		1	講義内容：障害者福祉の基本理念、ノーマライゼーションの概念

(2) 障害の医学的側面	1		1	講義内容：身体障害・知的障害・精神障害・その他の心身の機能障害 「演習」それぞれの障害の特性と介護上の留意点に対する理解を深めるよう演習を行う。
(3) 家族の心理、関わり支援の理解	1		1	講義内容：家族への支援、障害の理解、介護負担の軽減 「演習」家族の気持ちや、家族が受けるストレスについて検討する。
9 ところとからだのしくみと生活支援技術	78	7	85	到達目標：尊厳を保持し、その人の自立を尊重し、持てる力を発揮してもらいながら、その人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。
(1) 介護の基本的な考え方	4		4	講義内容：理念に基づく介護、法的根拠に基づき介護
(2) 介護に関するところのしくみの基礎的理解	4		4	講義内容：感情と意欲の基礎知識、ところの持ち方が心を与える影響 「演習」利用者の様子の普段との違いに気づくためにはどうしたらいいのか、グループディスカッションを行う。
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4		4	講義内容：人体の各部の名称と動きに関する講義内容：基礎知識、ボディメカニクスの活用
(4) 生活と家事	6		6	講義内容：家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活史苑
(5) 快適な居住環境整備と介護	6		6	講義内容：居住環境に関する基礎知識、福祉用具に関する留意点
(6) 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6		6	講義内容：衣服の選択、着脱、洗面の意義・効果 「実技演習」衣服の着脱の介護についての演習を行う。
(7) 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6		6	講義内容：利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法、移動・移乗に関する基礎知識 「実技演習」移乗の介護、移動の介護に関連する演習を行う。
(8) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6		6	講義内容：食事をする意味、食事のケアに対する介護者の意識、食事と姿勢、口腔ケア 「実技演習」食事の介護に関連する演習を行う。
(9) 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6		6	講義内容：全身清拭、陰部清浄、体調の確認、羞恥心や遠慮への配慮、実技演習 「実技演習」入浴の介護、清潔保持に関連する演習を行う。
(10) 排せつに関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6		6	講義内容：排せつに関する基礎知識、身体面・心理面での意味、プライバシーの確保、トイレ介助、おむつ介助 「実技演習」排せつの介護に関連する演習を行う。
(11) 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6		6	講義内容：安眠のための介護の工夫、環境の整備、安楽な姿勢、褥瘡予防 「実技演習」安楽な姿勢、褥瘡予防に関連する演習を行う。
(12) 死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護	6		6	講義内容：死に向き合う心の理解、苦痛の少ない死への支援 「演習」終末期の利用者への介護職としての関わり方について、グループで討論する。
(13) 施設実習		7	7	実習内容：排せつ・入浴・食事等の介助、コミュニケーション
(14) 介護過程の基礎的理解	6		6	講義内容：介護過程の目的・意義・展開、チームアプローチ

(15)総合生活支援技術演習	6			6	<p>講義内容：事例による展開</p> <p>生活の各場面での介護については、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点の習得を目指す。</p> <p>「実技演習」事例は「高齢分野」（要支援2程度、認知症、片麻痺、座位保持不可）から実施する。</p>
10 振り返り (4時間)	4			4	<p>到達目標：研修全体を振り返り、研修を通じて学んだことについて再確認を行い、研修後も継続して学習する姿勢を形成する。</p>
(1)振り返り	2			2	<p>講義内容：研修を通して学んだこと（施設見学も含む）</p> <p>「演習」研修を通して学んだことについてグループディスカッションを行う。</p>
(2)就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2			2	<p>講義内容：今後継続して学ぶべきこと</p> <p>「演習」研修終了後の継続的な研修の内容や方法について、各自考えをまとめる。</p>

※記載内容は、要綱の別紙2の内容を網羅したものとすること。

※講義と演習は一体的に実施すること。なお、科目9の(6)から(11)および(15)の実技演習は、実技内容等を記載すること。

※時間配分の下限は30分単位とする。